

公開シンポジウム

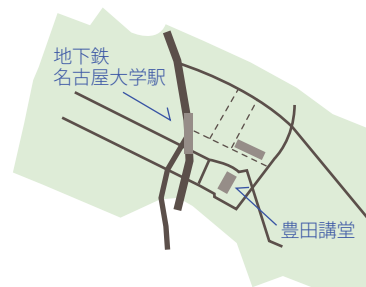
自然の仕組みを暮らしに賢く活かす
ーグリーンインフラへの招待日 時：2017 年 9 月 24 日（日）
14:30～17:00

会 場：名古屋大学 豊田講堂

<プログラム>

1. 挨拶 夏原由博（ELR2017 実行委員長 / 日本景観生態学会長） / 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
2. **なぜ身近な自然は失われるのか？ー自然再生の新たな方法論を構築する**
三橋弘宗（応用生態工学会） / 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
3. **生態系・風土を活かすランドスケープデザインと地域づくり**
伊東啓太郎（日本景観生態学会） / 国立大学法人九州工業大学大学院 工学研究院 教授
4. **都市の中のグリーンインフラ**
木田幸男（日本緑化工学会） / 東邦レオ株式会社 専務取締役
5. **グリーンインフラ推進に向けた官民連携**
西田貴明（グリーンインフラ研究会）
/ 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 新事業開発室 副主任研究員
6. 総合討論 進行：鎌田磨人（日本景観生態学会） / 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授

<会場 map>

名古屋大学 東山キャンパス 豊田講堂
地下鉄名城線「名古屋大学駅」下車すぐ夏原由博
(ELR2017 実行委員長
/ 日本景観生態学会長)三橋弘宗
(応用生態工学会)伊東啓太郎
(日本景観生態学会)木田幸男
(日本緑化工学会)西田貴明
(グリーンインフラ
研究会)鎌田磨人
(日本景観生態学会)

自然の仕組みを暮らしに賢く活かすーグリーンインフラへの招待

気候変動にともなう大雨や洪水、高潮の増加。東海・東南海・南海地震やそれによって引き起こされる津波。さまざまな自然災害が危惧される中での高齢化社会、地方の人口の急激な減少による地域社会の存続の危機。直面する大きな課題に、新しい考え方で立ち向かってゆくことが必要とされています。

「グリーンインフラ」は、生態系を社会基盤（インフラ）の一つとして明確に位置づけ、それが持つ多様な機能を発揮させることで、防災や地域づくりを行っていかうとする新しい考え方です。EU や米国では、様々な空間スケール、地域でグリーンインフラのあり方が検討され、指針が設けられ、そして社会の中で活用されています。日本でも、「国土形成計画」、「国土利用計画」、「気候変動の影響への適応計画」等の中で、グリーンインフラを活用した国土管理のあり方を模索し始めました。日本景観生態学会、日本緑化工学会、応用生態工学会は、持続可能な社会を構築するために、生態系の保全・活用手法を提案してきている学会です。今回は、3学会が連携し、グリーンインフラに関する国内の動向と、それぞれの学会内で取り組まれているグリーンインフラ研究・実践の最前線を紹介し、そして、これからの賢明な国土管理のあり方を提案していきたいと考えています。

発表者略歴（プログラム順）

夏原 由博（ELR2017 実行委員長 / 日本景観生態学会会長）名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
京都大学大学院博士課程農学研究科修了。大阪市立環境科学研究所研究員、大阪府立大学助教授、京都大学大学院教授を経て、2010 年より現職。専門は、保全生物学。両生類や小型ほ乳類の、生息地評価や絶滅リスク推定、生態系のつながりを評価するための指標選定、生物多様性を活かした地域づくりなどを研究。著書多数。

三橋 弘宗（応用生態工学会）兵庫県立 人と自然の博物館 主任研究員
京都大学大学院理学研究科博士前期課程修了。兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 生態研究部門 講師。専門は、河川生態学、保全生態学、博物館学。自然再生の適地抽出や環境影響評価等への適用方法を開発、解析の基盤となる生物多様性情報の整備手法についても研究開発を行っている。

伊東 啓太郎（日本景観生態学会）国立大学法人 九州工業大学大学院 工学研究院 教授
九州大学院農学研究科博士課程修了 博士（農学）。専門は、森林生態学・環境デザイン学。生態学・心理学の考えに基づいた環境デザインに関する国際共同研究をドイツ・ノルウェーで行っている。2006 年（土漆喰植木鉢手作りキット「ecopo」）グッドデザイン賞、2007 年（壱岐南小学校ビオトープ）キッズデザイン賞金賞、2013 年（遠賀川魚道公園）グッドデザイン賞、2014 年（夜宮公園巡り坂池プロジェクト）キッズデザイン賞受賞。

木田 幸男（日本緑化工学会）東邦レオ株式会社 専務取締役
金沢大学大学院自然科学研究科修了 博士（理学）。1974 年東邦レオ株式会社入社、現在、専務取締役。2017 年より、グリーンインフラ総研代表。土壌・緑化技術の研究ならびに緑化資材の開発を主業務とする。学会発表、分科会などでの話題提供を通じて、官・学・民の緑化技術のパイプ的役割を果たす。現在、日本緑化工学会副会長（前 日本緑化工学会都市緑化技術研究部会長）、元 日本樹木医会副会長。

西田 貴明（グリーンインフラ研究会）三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 新事業開発室 副主任研究員
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻修了 博士（理学）。2006 年 日本学術振興会特別研究員（DC1）、2009 年より三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社に入社。専門は、生態学、環境経済学。環境政策（生物多様性、自然資本、気候変動適応、グリーンインフラ等）を担当。徳島大学環境防災研究センター客員准教授。

鎌田 磨人（日本景観生態学会）徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授
広島大学大学院生物圏科学研究科博士後期課程修了 博士（学術）。1990 年 徳島県立博物館学芸員、主任学芸員の後、1998 年より徳島大学工学部助教授、2008 年より現職。専門は、生態系管理工学。河川生態系の保全、管理、二次的自然の保全、管理、生態系アセスメントの方法論を研究。現在、日本景観生態学会 副会長。